

平成29年6月 東京地区百貨店売上高概況

平成29年7月21日

I. 概況

1. 売上高総額	1,316億円余
2. 前年同月比	1.1% (11か月ぶりプラス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭2.2%(90.0%) : 非店頭-7.5%(10.0%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (平成29年5月対比±0店)
5. 総店舗面積	847,497㎡ (前年同月比:-4.0%)
6. 総従業員数	18,591人 (前年同月比:-3.3%)
7. 3か月移動平均値	11-1月 -1.3%、12-2月 -1.7%、1-3月 -1.5%、 2-4月 -1.3%、3-5月 -0.7%、4-6月 -0.2%

[参考] 平成28年6月の売上高増減率は-3.2%

【特徴】

- (1) 東京地区の売上高は1.1%増と11か月ぶりにプラスに転じた。好天に恵まれたことや、多くの店舗で実施したクリアランスセールの前倒し、様々な媒体を絡めた集客及び販促策が奏功し、入店客数も1.0%増と2か月ぶりにプラスとなった。
- (2) 円安株高の資産効果やインバウンドによる高額消費は全国水準以上に活況で、特に高級輸入腕時計については都内各店共に好調に推移しており、これを含む美術・宝飾・貴金属は2か月連続プラスで6.1%増と高い伸びを示した。
- (3) 平年を超える気温上昇により夏物商材に動きが見られた。具体的なアイテムとしては、スカーフ・サングラス・帽子・日傘などのUV対策商品のほか、ピアス・ネックレスなどの手頃な装身具も人気で、身のまわり品は0.2%減とほぼ前年並みを確保した。
- (4) 6月30日にクリアランスセールをスタートした店舗では、前年同日対比で売上の伸長はあったが、セール初日効果の比較(対前年7月1日)ではやや振るわなかった。半面、同日のプロパー(定価)商材は前年を上回っており、慎重な商品選択と価値志向を強める消費者の購買行動の変化が見て取れる。
- (5) プレミアムフライデーは引き続き食関連が好調で、レストランでのコンサートや特別メニューなどの人気も高かった。
- (6) 7月中間段階の商況は、0.6%増(7/18)で推移している。

【要因】

- (1) 営業日数増減 30.0日 (前年同月比 ±0.0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数18店舗)
①増加した: 5店、②変化なし: 6店、③減少した: 7店
- (3) 6月歳時記(中元、父の日)の売上 (同上/有効回答数12店舗)
①増加した: 1店、②変化なし: 7店、③減少した: 4店

東京地区百貨店 売上高速報 2017年06月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%)
総 額	131,648,440	100.0	1.1
紳士服・洋品	9,716,148	7.4	-0.6
婦人服・洋品	20,606,837	15.7	-2.1
子供服・洋品	1,908,111	1.4	8.6
その他衣料品	2,382,704	1.8	-5.2
衣 料 品	34,613,800	26.3	-1.3
身のまわり品	17,713,783	13.5	-0.2
化粧品	11,995,662	9.1	15.5
美術・宝飾・貴金属	9,455,585	7.2	6.1
その他雑貨	5,136,524	3.9	-8.2
雑 貨	26,587,771	20.2	6.8
家 具	1,292,387	1.0	-15.1
家 電	985,385	0.7	41.8
その他家庭用品	3,590,498	2.7	-15.5
家 庭 用 品	5,868,270	4.5	-9.3
生 鮮 食 品	5,797,406	4.4	-3.0
菓 子	9,898,219	7.5	2.4
惣 菜	7,101,173	5.4	-0.1
その他食料品	14,776,459	11.2	0.6
食 料 品	37,573,257	28.5	0.3
食 堂 喫 茶	2,988,472	2.3	-1.7
サ ー ビ ス	2,036,189	1.5	6.3
そ の 他	4,266,898	3.2	19.3

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。
本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率 (%)

商 品 券	4,294,991 千円	-4.4
従 業 員 数	18,591 人	-3.3
店 舗 面 積	847,497 m ²	-4.0

営 業 日 数	30.0 日	前年	30.0 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は、雑貨が7か月連続、食料品が2か月連続のプラスとなった。また、衣料品が20か月連続、身のまわり品が11か月連続、家庭用品が10か月連続のマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が27か月連続、子供服・洋品が4か月連続、その他食料品が3か月連続、美術・宝飾・貴金属と菓子が2か月連続、家電が2か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	1.1	—	11か月ぶりプラス
紳士服・洋品	-0.6	0.0	5か月連続マイナス
婦人服・洋品	-2.1	-0.3	20か月連続マイナス
子供服・洋品	8.6	0.1	4か月連続プラス
その他衣料品	-5.2	-0.1	2か月連続マイナス
衣料品	-1.3	-0.4	20か月連続マイナス
身のまわり品	-0.2	0.0	11か月連続マイナス
化粧品	15.5	1.2	27か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	6.1	0.4	2か月連続プラス*
その他雑貨	-8.2	-0.4	2か月連続マイナス*
雑貨	6.8	1.3	7か月連続プラス
家具	-15.1	-0.2	6か月連続マイナス
家電	41.8	0.2	2か月ぶりプラス
その他家庭用品	-15.5	-0.5	3か月連続マイナス
家庭用品	-9.3	-0.5	10か月連続マイナス
生鮮食品	-3.0	-0.1	16か月連続マイナス*
菓子	2.4	0.2	2か月連続プラス*
惣菜	-0.1	0.0	12か月連続マイナス*
その他食料品	0.6	0.1	3か月連続プラス*
食料品	0.3	0.1	2か月連続プラス
食堂喫茶	-1.7	0.0	5か月連続マイナス
サービス	6.3	0.1	2か月連続プラス
その他	19.3	0.5	7か月連続プラス
商品券	-4.4	-0.2	5か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・橘・長柴 まで
 TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>